

鼓童文化財団の人材育成

研修生 想いを寄せて ～2018年11月～

「太鼓芸能集団 鼓童」メンバー養成コース研修生の2年生9名、1年生8名。

鼓童の舞台を目指す若者達は、豊かな自然に囲まれた全寮制の研修所で共同生活を行い、日々稽古に打ち込んでいます。

来年1月、2年生は研修を修了し、準メンバーへの選考の時を迎えます。また、1年生は進級選考が待っています。

自分自身と向き合い、夢に向かって悩んだり迷ったりしながら、一生懸命成長しようとしている17名の想いをぜひご覧ください。



くらす まなぶ つくる

様々な稽古や農作業やものづくり、そして共同生活。1年目は表現のための土台づくり、2年目は実地研修などにより実践的な力を養い、自分たちの心身を耕していきます。

祭りへの参加

研修所にほど近い岩首(9月)・柿野浦(4月)の集落の祭りに受け入れていただき、生活の折から生まれた芸能を肌で感じていきます。また、島内各地の祭りを見学し、様々な芸能に触れる機会もあります。



農作業

田んぼや畑ではなるべく無農薬・有機栽培、手作業で行います。収穫は研修生の食事の一部をまかなってくれます。また、鼓童の会会員の方などに送る柿は、地元の方から教わりながら摘み取りや収穫、発送などを行います。



ものづくり

入所後すぐに、食事時に使う竹の箸を手作りします。その後、角材にカンナをかけてバチを作ります。バチは太鼓の音を出すための大切な相棒です。鼓童の舞台メンバーになっても自らバチを作ります。その他に陶芸なども行います。



茶道・能楽・講義など

茶道(裏千家)では、1年目に盆略点前、2年目からは選択制で薄茶点前(炉)まで学びます。日頃お世話になっている皆さんを研修所にお招きする「収穫祭」で、最終発表の茶席を催します。能楽(宝生流)では年ごとに演目の一つを選び、謡と仕舞を学びます。地元の能楽愛好家の皆さんと共に能舞台に上がる経験もします。佐渡の芸能に関する講義や、戸外に出て俳句の吟行なども行います。



太鼓・踊り・唄・笛の稽古

研修所では、太鼓を打てるだけでなく、踊って、唄って、笛などの楽器を演奏する技術を身につけます。鼓童メンバーや外部からの講師を招いて、様々な稽古が行われます。また、研修生自身で考え、自主的に稽古する時間もあります。太鼓は、基本的な打法を段階を追って学びます。鼓童の演目から「屋台囃子」「三宅」「太太鼓」「千里馬」「モノクローム」など、様々なスタイルの太鼓を稽古します。踊りでは「鬼太鼓」「剣舞」「津軽手踊り」や、琉球舞踊の「群星」などを学びます。唄の稽古では、発声・音程・リズムなどの基本から、各地の民謡、アイヌの唄など様々な歌に触れます。また、作曲や合唱も行います。笛は、主に篠笛を用いて音の出し方から始め、鼓童の舞台上で演奏されている曲目を中心に学びます。また、選択制で箏や胡弓、三味線などにも取り組みます。



芸能の背景に触れる

祭りや農作業に加えて、芸能の背景を知ることにつながる様々なものに触れます。例えば、酒蔵の見学。麴や酵母の力を借りて作る日本酒は、人の都合だけではできぬもの。思いを込めて仕込んで出来上がりを目指す。自分たちの力が及ばぬものへの畏敬の念が、祈り、願うという芸能に繋がることを知り、ひいては自らの太鼓の音の響きに向き合う姿勢を育みます。



地域との交流

地元の集落の方々と、草刈りや防火訓練、敬老会への参加など、祭りだけではなく様々な作業や行事を一緒に行わせていただきます。



「太鼓芸能集団 鼓童」メンバー養成コース

二年生

〈36期〉

身体の軸を鍛える「体幹トレーニング」。笑顔ですが地味にきついです。別名はなぜか「青春」(齊藤栄一命名)。

自分

なかたに
中谷 瘦

19歳 神奈川県横浜市出身

自分。自分って一体なんだろう。研修所に来てそう思うことが多々あります。「今日は元気に明るく行くこう」とか「今日は冷静に行こう」等、その時の雰囲気や状況に合わせて、自分で自分を設定していました。ですが、それは全部空回り。中々物事がうまくいきませんでした。実際、今も「自分で何なのか」答えは出ていませんが、自分を設定するのをやめました。良い意味で何も考えずにありのままの自分でいると、相手も少しずつ自分のことを分かってくれて、お互い気をつかわず、良い関係を築けることができました。舞台も同じなのかなと思います。格好をつけた自分もういりません。課題に向き合いながら、自分のなりたい夢に向かって、突っ走っていきたいと思います。



前へ進む

いしい
石井 彰馬

19歳 埼玉県川越市出身

私は、研修所に来る前まで出来ない事、辛い事から逃げてきました。考えもネガティブになり、出来ないと思いつ込んでいってる事を諦めてきた自分がいました。研修所に来て何度も辛い事や悔しい思いをして今までになく泣きました。ですが、一回も辞めたいと思つた事は、ありません。それは自分が見つけた夢が大好きで情けない自分を変えたいと強く思えたからです。太鼓を通じて弱い自分から逃げない自分へと変わります。太鼓に嘘をつけず本当の自分と向き合うようになり心がワクワクし自然と笑顔が増えました。諦めたくない夢を見つけた今、全力で馬のように走り続けて手が届かなくても迷わず伸ばし続け常に新しい一歩を踏み続けます。あの舞台で逃げなかった自分の音を響かせるために！



種

小室 利樹 こむろ りき

20歳 栃木県芳賀郡出身

社会経験もなく、いきなり飛び込んで来たこの世界。太鼓や笛ばかり稽古すると思っていたが、来て早々にやったのは、今年植える稲の種籾を水に浸ける作業。その後、集落で行う春祭りの準備で見た鬼太鼓。「祭り」と言う言葉の意味を改めて知った。太鼓の稽古がある中で時折入ってくる農作業。土を耕し、種や苗を植え、収穫して食べる。今まで自分達が食べて来た物の大本の姿を知ることが出来た。集落の方々から野菜を頂いたり、様々な交流をする中で、自分の地元とはかなり違う人との付き合い方を知った。研修所ですべて来た様々な経験は、研生活の間ですぐに生きる訳ではないが、これからの自分のための種として、この先もたくさんさんの経験を積んで行きたい。



自分の音

広木 優一 ひろき ゆういち

20歳 福岡県田川郡出身

僕は、人の顔色をうかがって、人にあわせて行動するくせがありました。しかし最近になって、人の顔色をうかがうようになつたのは小学校のころの出来事がきっかけだと気が付き、今まで自分の気持ちに嘘をついて人にあわせていたとわかりました。行動しようと思いましたが、いざ人目を気にしないようにすると、人にあわせることがあたりまえになっていた僕は、自分はどうしたいのかよくわからなくなっていました。しかし、今僕は研修所において太鼓を打っています。これはまぎれもなく自分の意志で選んだ道です。これからは、人にあわせるのではなく、これが廣木優一だといえる強い核を見つけて、自分の音を出していきたいです。



変わらないもの

定成 啓 さだなり けい

20歳 福岡県糟屋郡出身

この研修所に来て自分の中での太鼓の価値観や、音を作ってゆく楽しさというものは大いに変化がありました。ただ変わらないものもありました。ここに来る前、僕は太鼓を叩くのが楽しいというよりも、その太鼓を叩く仲間と一緒にいる事、太鼓を通して色んな人と出会える事、これが一番でした。この研修所では、毎日どんな時でも一緒にいる同期や後輩。本当に顔をみたくもない時もあります。みんながいないと成り立たないこの環境。そして様々な行事で出会う人々。もちろん鼓童だけに今までと規模は違いますが、根っこは同じだと思えます。周りの人の支えがあつてこそ、この場所です。周りを返せるのだと思います。この恩を舞台で返せるように、残りわずかの研修期間をふんばり抜きます。



信じる

山雀 永根 やまね ながね

23歳 韓国出身

こどもの時から良くも悪くも信じる事があまりできない人間でした。自分を信じるのも人を信じるのもできない。研修所に来てこそうでした。みんなを信じられない。と言って一度も信じたことがないことではないです。大学の太鼓サークルで出会った先生のおかげで私はそのチームの仲間を信じる事ができました。しかしそれは自分の力ではなく周りの方のおかげです。ただ相手が信じてくれるのを待つだけではダメだ、そう考えるようになった今、自分を見直し自分から信じるよう努力をしようとしています。自分を信じて自分の考えに自信を持ち、周りを信じてすなおに伝える。周りのみんながいるから気づき、自分と向き合えます。そんなみんなを信じつづけてい



新しい自分

加藤 雄大 かとう たけひろ

24歳 神奈川県横浜市出身

外に出て、ふと校舎を見上げた時、改めて自分が研修生であることを実感します。日々の生活に追われ、一つ一つの行動に何の意味があるのか十分に考えられていないまま進んでしまう。僕は今、不安です。でも、不安の無い人はいないし、この生活の中で得た一つの感情はシンプルで正直なものだと思ふから、逃げません。むしろ色んな思いが混ざり合って吐き出され、新しい自分に出会える。そんな気がしています。最近出会ったのは料理好きな自分。考えて、盛りつけまで工夫して出したご飯を「おいしい」と言っておもてなしの心が大切で、それは舞台でも同じだと気づきました。新しい自分を探して、少しずつ前へ進んでいきます。



自分と向きあう

前濱 純 まえはま すなお

20歳 石川県金沢市出身

研修所に入所して1年7ヶ月が経つ。中身も外身も自分と向きあえたのだろうか。研修所生活「太鼓を頑張れば舞台上に立てる。」そんな甘い事を考えて入所した。だけど生活する中で太鼓の事より自分と向きあう時間の方が多い。そもそも「自分と向きあう」とは何なのか。ただ追い込むだけでは変わらない。毎日自分を見つめる日々。たどりついたのは、「好きな自分と嫌いな自分を知る事」だった。私は嫌いなことから逃げてきた。好きな事ができる自分に満足していた。だから嫌いな事は一日が終ることに壁は厚くなつていく。手ではたおせないくらい厚い壁になってしまった。研修所生活残り3ヶ月。向きあうのに嘘はつけない。あとは努力。諦めたくない。だから向きあつて、人に嘘のない真つ直ぐな音を出したい。



大切なもの

新山 萌 にいやま もえ

20歳 埼玉県鶴ヶ島市出身

研修所の春は木造校舎独特の香りがあります。夏の夜空は星がきれいで地元にいる家族を思い出させます。秋は、だんだんと仲間との距離が近くなって太鼓の音も変わります。冬は人数が減って肌寒さが増します。稽古後のみんなの身体からは湯気が立ちます。でもその寒さを乗り越えて迎える春は涙が出るほど嬉しいです。今までだったら気付かなかった事に気付く。小さい事に感動する。自分と仲間と太鼓と向き合えるこの2年間は、毎日が貴重で宝物です。日々変わっていく音、心。不安と期待。現実と夢。あと3ヶ月。もう終わる。この先なにが待っているかわからないけれど、まずはこの経験をさせてくれて、無条件で私を支えてくれた家族に恩返ししたいと思います。その為にも最後まで打ち込んでいきます。



実地研修

「鼓童佐渡宿根木公演」では鼓童メンバーと同じ舞台上に立ち、一般のお客様の前で演奏する経験をします。また、佐渡島内の中学校を訪れて行う「交流公演」では、演奏や話で一つの公演を組み立てるなど、実践的な力を養います。

佐渡島内で行われる鼓童公演やイベントでは舞台設営や警備、受付などのスタッフワークを学びます。「鼓童塾」などの合宿企画では、アシスタントをはじめ、料理でもてなし、宿泊の受入なども行います。

(写真は送り太鼓)



一年生

〈37期〉

八段錦(はちだんぎん)の8つの型。身体基礎で学ぶ気功法で、研修所ではほぼ毎朝行なっています。



吉岡めぐみ

春日井啓太

山口諒

池山空見

奥野天翔

野中純平

佐野未佳

バジゲル・アニナ・チツラ

- 名前、年齢、出身地
- 1 研修所に来る前何をしていたか
 - 2 特技と苦手
 - 3 研修所における自分の役割、役どころ
 - 4 佐渡で見つけた宝物
 - 5 自己紹介

池山空見 (いけやまそらみ)

25歳 愛知県名古屋市出身

- 1 会社に勤めて、事務・経理の仕事をしていました。
- 2 【特技】たくさん食べることと草むしり
【苦手】田んぼからはまった足をぬくこと
- 3 残った食材や料理をおいしくいただく役いつも明るくて優しい、たくさん佐渡の方々との出会い
- 4 ずっと悩んでいましたが、年齢制限の最後のチャンスで決心し、研修生になることができました。元々人見知りでしたが、佐渡へ来て、多くの方々とお話しするなかで、人と交流することの楽しさを感じられるようになりました。研修所での賑やかな食事の時間が大好きなので、これからもたくさん食べて頑張ります。

吉岡めぐみ (よしおかめぐみ)

19歳 宮崎県延岡市出身

- 1 大学で建築を勉強していました。
- 2 【特技】絵をかくこと。
【苦手】初対面の人と話すこと。
- 3 力持ち。何でも運びます！
- 4 第二の家族(同期、2年生、地域の方々)。収穫の喜び。
- 5 私は、大学を休学し、研修所に来ました。そのことに関してはいろいろ意見がありますが、今しかないと考えてここにきました。稽古をしても農作業をしても、生活をしているだけでも、研修所に来なかつたら知ることのなかった事を感じます。初心を忘れず、1秒1秒を大切にしていきたいです。

佐野未佳 (さのみか)

18歳 愛知県名古屋市出身

- 1 ボランティアに命をかけていた高校生でした。
- 2 【特技】揚げ物を作ること
【苦手】敬語を使うこと
- 3 畑係。自分で作る野菜は最高です！応援して下さる方々の温かさ。
- 4 私は生まれつき右足に障がいを持っていました。18年間生きてきて、苦しんだ事は数えきれない程あります。そんな私が目指したいと思えたのが、鼓童の舞台です。ハンデがある分、誰よりも努力し、自分しか出来ないことを見つけ、鼓童の新たな道を作る第一人者になります！

Bazigher Annina Cilla

(バジゲル・アニナ・チツラ)

25歳 スイス出身

- 1 スイスの大学で日本語、中国語とアジアの美術史を勉強していました。
- 2 【特技】パンを作ること
【苦手】雑巾掛け
- 3 外国人と研修生の架け橋
- 4 本当にやりたいことについて考える時間研修所に来て半年、なれないことはまだたくさんありますが、最近朝食で出る納豆とごはんにかける生卵を食べられるようになりました。
- 5 研修生活の中で一番学んだことは、自分の時間を作ることです。そして、その時間を大切にすることです。

奥野天翔 (おくのたける)

19歳 東京都板橋区出身

- 1 駒込学園高等学校の学生をしていました。
- 2 【特技】研修ではほとんど必要のない泳ぐこと
【苦手】テンションをあげること
- 3 真面目な柿・梅・牛乳の管理担当
- 4 和太鼓のことで本気で競いあい、また励ましあえる仲間
- 5 はじめまして！この研修所に来て自分で料理をしていく中器用になったのか、包丁さばきが上手くなりました！キャベツの千切り、小ねぎの小口切りが得意です！この器用さを太鼓にいかしてこれからも頑張っていきます。

春日井啓太 (かすがいけいた)

19歳 埼玉県春日部市出身

- 1 無遅刻・無欠席の高校生。
- 2 【特技】朝起きること
【苦手】坂道を走ること
- 3 盛り上げ隊長・研修生のヘアスタイリスト
- 4 佐渡の方の温かさ、37期の同期、36期の面白い先輩
- 5 初めまして！高校を卒業後、憧れであった鼓童の世界に入ったケイタです。今一番思うことは、親への感謝の気持ちです。佐渡に来てから、掃除洗濯料理、生きていくために必要なことを太鼓とともに学んでいます。親に恩返しができるように自分とそして太鼓と向き合う時間を大切に、日々、打ち込みます！

野中純平 (のなかじゅんぺい)

20歳 埼玉県入間市出身

- 1 高校を卒業して一年半働いていました。
- 2 【特技】たくさん食べること
【苦手】料理と手先を使う作業が苦手です。
- 3 卵の管理、運転手、37期のお兄さん
- 4 お祭りや交流会などで出会った集落の方々
- 5 初めまして、研修生のお兄さんの存在のじゅんぺいです。この研修所に来て自分の好きな所、きらいな所、いろいろ自分自身と向き合え、時にくじけそうになりますが、同期、そして2年生みんなに支えられながら元気に生活しています。2年という長いようで短い研修生活、全力でかけつけます!!

山口諒 (やまぐちりょう)

18歳 愛媛県宇和島市出身

- 1 ごく普通の高校生
- 2 【特技】卵焼きをたくさん作ること
【苦手】文章を整えること
- 3 特攻隊長
- 4 お米、自分で作ったパチ
- 5 大きな眉毛と鋭く尖った八重歯が特徴の山口諒です。今の僕は研修生の中で一番年下で世間知らずでおバカなので同期にもよく怒られたりしています。けれど、もっと様々な経験をして大人へと近づけるように頑張ります。母さん、僕は風邪も大きな怪我もせず元気に頑張ってます。大丈夫やけんね!!

二〇一八年講師の先生方

(五〇音順・敬称略)

- 青柳洋子 [能] 宝生流教授嘱託
- 赤塚五行 [俳句] 新潟日報佐渡版 俳句選者
- 朝倉大輔 [能] シテ方 宝生流能楽師
- 石川義純 [津軽手踊り] 宗家石川流師範
- 伊藤多喜雄 [唄] 民謡歌手
- 岩崎ちひろ [魚のさばき方] 魚屋
- 岡田京子 [歌] 作曲家
- 小木さざ波会 [小木おけさ]
- 加藤健 / 加藤酒造店 [酒蔵見学・酒造り体験] [金鶴] 醸造元
- 金子竜太郎 [身体基礎] 和太鼓奏者
- 狩野泰一 [篠笛] 篠笛奏者
- 金城光枝 [琉球舞踊] 琉球舞踊家・太夫流華の会師範
- 日下敏敬 [柿畑の作業] 弘仁寺住職
- 葛原正巳 [陶芸]
- 野上結美 [ヴォイストレーニング] 声楽家
- 野村和仁 [水口囃子] 水口ばやし 水口囃舎代表
- 松田祐樹 [講義] 佐渡の芸能研究者
- 桃井宗生 [茶道] 裏千家学校茶道教授
- 山本健三 [ランニングの基本] 佐渡市陸上競技協会理事長
- 柿野浦、岩首地区ならびに佐渡の皆様



柿の収穫作業



陶芸



魚のさばき方

鼓童文化財団研修所 ご支援のお願い

太鼓芸能集団「鼓童」の舞台を花にたとえれば、研修所はベースとなる土を耕し、根を育む活動にあたります。鼓童は財団を設立して以来、研修所を公益的な活動と位置づけて運営してまいりました。演奏の技術はもとより、その人間性すべてが舞台上にそのまま表れるとの考えから「くらす・まなぶ・つくる」を柱に、まず何よりも生き方を磨くことに重きを置いております。

1996年に旧岩首中学校の校舎跡をお借りして開所し、研修生の学び舎、そして生活の場でもある「柿野浦研修所」。築60年を越えて老朽化した建物は補修の必要があり、また研修所の運営にも年間約3,000万円の費用がかかります。

ぜひ、夢に向かう研修生の思いを支えていただけませんか。皆様のご理解とご協力をいただければ幸いです。なお、お寄せいただいた支援金は、公益財団法人への寄付金として、所得税(お住まいの自治体によっては住民税も)の優遇措置の対象となります。

研修生育成支援

1 研修所設備補修、研修生育成支援

2015年には総額で130万円を越えるご支援をお寄せいただき、柿野浦研修所の開設からちょうど20年となる2016年、シャワー、ボイラー、さらに水圧など大幅に改善することができました。ご協力いただいた皆様に深く御礼申し上げます。

また本年は、研修生が使用する車両(7~8人乗りのワゴン車)の買い替えを行いました。稽古や食材の買出しなど、車両は毎日のように佐渡島内を移動する研修生を支えています。

老朽化した研修所の建物を今後も維持・活用し、安全でかつ豊かな自然に囲まれた環境の中で研修生を育成していくため、皆様より引き続き「研修生育成支援」にご協力いただけますようお願い申し上げます。

ご送金先

[郵便振替]

加入者名：公益財団法人鼓童文化財団

口座番号：00690-9-25829

「研修生育成支援」と明記の上ご送金ください。

[銀行振込]

口座名義：財)鼓童文化財団 ザイ。)コドウブンカザイダン

第四銀行 南佐渡支店 普通 1143861

三菱UFJ銀行 新潟支店 普通 142468

お名前の前に「KEN」とお書き添えの上お振込ください。

[インターネット]

鼓童ウェブサイトより、クレジットカード(またはPayPal)でもご決済いただけます。

2 鼓童×きしゃぼん

「どんどこ古本募金プロジェクト」



KODO × きしゃぼん

鼓童文化財団は「古本募金きしゃぼん」の協働パートナーです。「きしゃぼん」は、ご自宅に眠っている本・DVDなどをリサイクル換金し、指定の団体(協働パートナー)に寄付する仕組みです。

当プロジェクトを通じていただくご寄付は、研修生の支援に使わせていただきます。

[お問い合わせ] 古本募金きしゃぼん

フリーダイヤル 0120-29-7000

URL: <http://kishapon.com/kodo/>

3 物による支援(インカインド)

2018年度も楽器(箏)や着物など様々な物をご提供いただきました。このようなご支援をいただける方は、ぜひ鼓童文化財団までご連絡をいただけますようお願いいたします。

鼓童文化財団では毎年、鼓童の次代を担う研修生を募集しています。(2019年度の募集は終了しました。)



研修期間 2年間

応募資格 18歳以上25歳以下。
太鼓の経験の有無、性別、
学歴、国籍は問いません。

[応募～研修生になるまで]

- 応募案内を請求(履歴書・作文等は所定の用紙があります)
- 応募書類を提出(11月頃)
- 書類選考～結果発表(12月上旬)
- 実地面接(1月に佐渡で開催)～結果発表(郵送)
- 研修費(1年次前期分)の入金
- 研修所入所(4月)

詳しくは鼓童ウェブサイト内「鼓童文化財団研修所」をご覧ください。またはお電話、メール等でお問い合わせください。若い皆様の挑戦、心よりお待ちしております。応募を検討中の方、どんなところか知りたい方などを対象に「研修所体験入所」も随時受け入れいたします。(基本は1泊2日/日帰りも可能)お気軽にお問い合わせください。

応募・お問合せ

(公財)鼓童文化財団 担当:石原泰彦、本間康子

Tel. 0259-81-4100 Fax. 0259-86-3631 Email: kenshujo@kodo.or.jp

鼓童ウェブサイト内「鼓童文化財団研修所」 <http://www.kodo.or.jp/apr>



鼓童メンバー：阿部好江(太鼓ほか)、内田依利(太鼓ほか)、草洋介(太鼓、踊り)、小島千絵子(踊り)、齊藤栄一(太鼓、交流公演)、
講師(主な担当) 藤本容子(唄、発声)、藤本吉利(太鼓、踊り、唄)、三浦友恵(踊り)、見留知弘(太鼓ほか)、山口幹文(笛、邦楽器類)

スタッフ講師：石原泰彦(生活面全般、農作業、踊り)、上之山博文(祭り見学)、大井キヨ子(小木おけさ踊り、裁縫)、後藤美奈子(俳句立会い)、
(主な担当) 菅野敦司(自由研究、鼓童の話)、高津万理(料理、茶道立会い)、本間康子(サンバ打楽器、能楽立会い)、宮崎正美(ワークショップ、交流公演)

2018年11月10日発行 公益財団法人鼓童文化財団

〒952-0611 新潟県佐渡市小木金田新田 148-1 Tel. 0259-81-4100 Fax. 0259-86-3631 Email: zaidan@kodo.or.jp URL: <http://www.kodo.or.jp>

写真：岡本隆史、神谷唯、鼓童 デザイン：吉川美沙希